

以下の「論文タイトル」及び「論文概要」は、発表申込書から作成しています（順序不同）。研究会当日の発表では、都合により、タイトルや内容が一部変更になる可能性もあります。

#### ●論文タイトル

音声情報の同時提示が文章読解に与える影響

#### ●論文概要

マルチメディア学習において、一般的には視覚情報に音声情報を追加することが学習のサポートになることが示されている。一方で、同じ情報を複数の方法で同時に提示することにより負の影響が生じる場合も存在する。本研究では、文章読解時に音声と同時に提示することが文章理解にどのような影響を与えるか、読解力の違いを考慮に入れて検討を行った。その結果、読解力の低い学習者では音声の同時提示が有効となる一方で、読解力の高い学習者では音声学習を阻害することが示された。このように、直感に反して、文章に音声を加えることは逆効果となる可能性があるため、指導を行う際には学習者の能力を考慮する必要があると思われる。

#### ●論文タイトル

動画教材におけるアバター映像に対する印象評価

#### ●論文概要

本研究は、動画教材におけるアバター映像に対する印象評価を行うことを目的とした。学校防災を題材として、ナレーションと連動するアバターを画面右下に挿入した動画を作成した。大学生（N=28）を対象に、アバターがある動画とない動画を視聴後、印象評価を求めた。その結果、わかりやすさ、理解しやすさ、動機づけについては平均的にはアバターがある方に肯定的であったが、一定の否定的評価もあった。また、興味はほぼ肯定的評価で占められていた。加えて、視聴中にアバターを見ていたと評価した参加者が多かった。これらの結果から、動画教材におけるアバター映像には平均的には肯定的であるが、一定の否定的印象もあることが明らかになった。

#### ●論文タイトル

女性の就寝時における快適性の変動検出と有用な情報をコミュニケーションに利活用するための文献調査

#### ●論文概要

ある条件下で人間が感じる快不快の感覚を定量化する基礎研究は多い。

しかし、これらの基礎研究を応用研究や開発研究に発展させていくにあたっては、環境制御

などの自動化技術や、データの可視化技術といった方向性が多く、対象者に対して様々な判断をサポートする有用な情報をコミュニケーションに利活用する技術の領域が未発展である。

そこで、「身体的属性としての女性」の「就寝時」という条件に限定し、快適性の変動と女性特有の身体的特性との相関性を調べ、その特性を踏まえた身体とのコミュニケーション技術が確立可能かどうかを確かめるべく文献調査を実施した。

本論文で調査結果と将来の展望について述べる。

#### ●論文タイトル

角筆文献調査マニュアルの作成に向けて

#### ●論文概要

角筆文献とは、角筆という筆記具によって、文字が紙面に書き入れられた文献をいう。文字は、墨を使わず、紙面を凹ませて搔いただけなので、注意深く調査しないと、貴重な文字情報を見逃してしまうことになる。角筆文献は、昭和36年に発見されているが、今日に至ってもなお、その存在がほとんど知られていない。その結果、本の補修など、本を守るという行為により、かえって貴重な文字情報が失われるという状況を生んでいる。多くの人に角筆文字の存在を知ってもらうためには、大学の授業等でも使えるような分かりやすい「角筆文献調査マニュアル」の作成が必要であると考え。本発表は、マニュアルの概要について考えていることを発表する。

#### ●論文タイトル

人口減の時代に、医療と向き合う要点の調査研究4  
～改正オンライン服薬指導の課題に関する考察～

#### ●論文概要

令和元年12月に薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）の改正が公布され、令和2年9月1日より本格的に施行された。薬機法の改正の背景には、我々のライフスタイルの変化も強く意識されている。筆者は、これまで、情報提供のあり方の考察を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策とオンライン服薬指導に関する課題について考察を行ってきた。

令和4年3月には、改正省令が出され、オンライン服薬指導と現在のあり方にフィットする様に見直された。薬剤師側のスキルや環境整備に目が向けられているが、その対応について、考察を行う。

### ●論文タイトル

説明活動における非連続型テキストの利用について

### ●論文概要

私たちは説明活動（プレゼンテーション）にて、図表やグラフ（非連続型テキスト）を用いる。これまでに、非連続型テキストを含む文書の読解研究では、読解方法の個人差が大きいことやワーキングメモリがその理解に大きな影響を与えることがわかっている（テクニカルコミュニケーション・リデザイン学術研究会 2019 岸、2019 中村、2020 中村など）。そこで、本研究では、説明者は説明活動を行う際に用いるグラフ（非連続型テキスト）をどのように読み取り、利用しているのかについて検討する。

### ●論文タイトル

医療機器添付文書の臨床現場活用における障壁に関する考察

### ●論文概要

第5次医療法改正により、医療機器に関する安全情報の管理が義務付けられた。一方で、特に添付文書については、収集に留まり臨床現場での活用には至っていない傾向にある。そこで今回、臨床現場での医療機器添付文書活用の障壁となっている阻害因子を明らかにするため、「実装研究のための統合型フレームワーク -CFIR-」のうち「内的セッティング」を用いて考察をおこなった。その結果、①医療機器、医療材料、医薬品の性質の違い、②添付文書と取扱説明書、簡易取扱説明書の活用に関する棲み分け、③医療現場でのインフラに関する問題、などが明らかとなった。法令要求に基づく添付文書の活用は、行政機関との連携とともに各現場にあった運用方法の検討が示唆された。

### ●論文タイトル

日本語会話体ライティングの受容性の検討

### ●論文概要

昨今、ユーザー体験を良いものにするを目的とした“UXライティング”が注目されている。その代表的技法の一つである“会話体ライティング”は、英語では確立しつつあるものの、日本語環境ではカジュアルすぎる表現になる恐れがあり、適用は進んでいない。本研究では Web 調査により 3 つのサービスを想定し、表現を会話体に変更した UI をすることで、その受容性を検討することとした。結果として全般的に受容性は低いものの、受容性の高い人もいた。それらの人は、制御焦点理論による予防焦点の得点が高い人である可能性があることが示された。